

方向に視野が開き始めまして、家庭の事情もあり、高校3年の就職活動期には確か学年全体で300名ほどいたと思いますが就職が決まったのは300名中299番目でした。担任の先生にどこでもいいから、就職口がないかと相談いたしまして、地元・栃木県のゴルフ場を紹介して頂きやっとの思いで落ち着いたということでありました。

当時からよく言われてきたのですが、ゴルフ場の仕事って何をするんだ？と知人たちから聞かれ、まさかキャディをやるわけでもないだろうし、プロゴルファーでも目指すのか？と言った具合でした。今だから言えることですが、ゴルフが大好きでゴルフ場に就職したといった経緯ではなく、“なんとなく”と言った形で今日を迎えているわけでございます。しかしながら、なんとなく入ったゴルフ場会社が今日の私の人生において、様々な経験を味わえたこと、そしてそれが今、大いに役立っている事は間違いのない事実であり、まだまだ未完成ではありますが、感謝の念を持つということを教えてくれているのであります。

まず最初に仕事に就いたのが昭和55年4月栃木県大平台CC 世間知らず、がむしゃら休むのが嫌いだった（上司に教わったお酒を飲みに行ってもらえることから）何でもやった（朝の従業員送迎、フロント受付、キャディ、経理、コース作業・・・数え切れない）

昭和61年7月三重県名松GC 私のゴルフ場経験の中で、これまでもっとも長い6年間を過ごしたコース。平社員～副主任～主任～係長といった昇格路線を突き進んできた。とにかく何でも関心を持って仕事が順調な思い出ばかり。着任後の学卒で入ったキャディさんという仲になり結婚。栃木の両親には入籍した後紹介。

平成4年6月埼玉県ノーザンCC錦ヶ原G 長男でもあり両親の健康上の理由で関東へ

平成9年7月埼玉県双園GC児玉C建設準備室 初めてのゴルフ場建設現場。

平成9年12月日東興業 和議申請 皆さんに大変ご迷惑を掛けた。

平成9年12月栃木県 大平台CC 保全命令の任務で経理全般を指示。

平成10年3月埼玉県 錦ヶ原自動車教習所 お客さんが全員《高校3年生、大学生》皆さんには失礼かもしれないが、違った意味で大変楽しいひと時であった。

平成10年10月東京都 日東興業 本社 経営管理部本部 当時、埼玉の大宮から日本一“痴漢”の多い路線の《埼京線》で通った。小遣いがまったく足らない時期（連日、新宿・歌舞伎町にかよった。最終電車で間に合わず池袋駅前で野宿したこともしばしば・・・）

平成11年9月栃木県 双園GC栃木C（最初の支配人）初めての支配人。

平成12年10月福島県GACC

平成15年8月茨城県 水戸GC

平成16年8月新潟県 大新潟CC三条C（現在に至る）

とこれまで11事業所での勤務を重ねて参りましたが本日の話の主旨といたしまして、感謝の念（人と人とのつながりが大切であること）を話させて頂くわけですがこれまで一番長い在職であった三重県のゴルフ場でのことをお話します。

現在、私はゴルフ場の支配人という、大きなくりで言えば、サービス業、接客業に携わっているのですが学生時代はそんな事は無かったのですが、しいて言えば人付き合いは決してうまくありません。うまい方だと自分では思えません。休みの日などは、ゴルフ場へは決して行きたくもなく、家でゴロゴロしているか、突然ふらっと旅行に出かけたりするのが楽しみです。私が26歳の頃、それまでの上司がアメリカのゴルフ場へ転勤することになり、代わりの人材を本土で検討しており心待ちにしておりました。というのもそれまでの間私が代役を勤めざるをえなかったからです。まだまだ遊びたい盛り。いつかは上司が着任するのだろうと、そうに決まっていると毎日思っておりました。そうしているうちに、数ヶ月が過ぎました。まだ、本社からの人事が決まっていませんでした。私を除く管理職全員で緊急の管理職会議が開催されたのを見て見ぬ振りしながらいると、一人の管理職から「お前、総務マネージャーやれるか」と突然聞かれました。私は何を言っているのか意味がわからず、ただ哑然としていました。聞き返すと「以前からの代役の件だけど、グループ内（当時の日東興業）で人材が不足している。お前が総務マネージャーをやれとの事」だそうでした。ま〜ここまでは世間一般的にそう珍しくは無い事例だと思いますが、当事者である私を除いての管理職会議（当然ここには当時の支配人も同席していたのですが）では次のような討議がなされていたと後で聞きました。「宇賀神が総務マネージャーをやるくらいなら俺は管理職を降りる」「宇賀神と一緒ににはがんばれない」「問題ばかり起こしている宇賀神が、総務マネージャーになったら他の者に示しがつかない」※この問題というのは当時つきあっていた彼女（現在の奥さんですが）との間でなりふり構わず、自分が部下を抱えてはいたものの業務指導を言える立場でない様な連日であった事・・・と言った具合でした。

結局、当時の支配人が全責任を持つとの事で私は総務マネージャーについた訳ですが。

その時に私の理解者であった数名の者が他の管理職に対し、意見陳情を行ってくれたのです。理解者というのはほとんどが掃除のおばさんであったり、いわゆる現場の人達でした。

勿論その場には私は居ませんでした。居られる状況ではなかった訳ですが「宇賀神さんは確かにプライベートでは問題がある。しかしそれは過去のこと。あなた方先輩管理者として指導すべき立場である」「現在事故後充分に反省している」「ついては、みんなで宇賀神を応援してあげようではありませんか、／＼」といった内容であったと後で聞いております。

誰でも何かしら悪い面はあると思います。自分の悪い面を直接言ってくれることは大変ありがたいことです。しかしながら、影で言われることは決して気分の良いものではありません。だから正直言って、管理職会議で宇賀神の総務マネージャー昇格は許し難いとの事を影で言われていたことを知ったとき正直言って凹みました。

そんなときに、あえて過去の事を捨て前向きに考えてくれた一部の理解者と言いますか、従業員。いまから思えば、その者達が居なかったら現在の私は居なかったかもしれません。今では三重県を離れて13年ほど経ちますが結婚もした土地でもあり、私の第二の故郷ともいえる、大変感慨深いところです。